

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 米大統領選が本格始動へ

2020年8月17日

17日から20日にかけて行われる米民主党の全国党大会で、11月の大統領選の民主党候補が最終的に決定します。大統領候補にジョー・バイデン前副大統領、副大統領候補にカマラ・ハリス上院議員が選出されることが確実となっています。

共和党の党大会は21日から24日にかけて行われます。こちらは現職のドナルド・トランプ大統領、マイク・ペンス副大統領が選出されることとなります。

これらの結果を受けて11月3日の大統領選に向けた動きが本格化します。

良きにつけ悪きにつけ話題に上ることの多いトランプ大統領ですが、米ダウ平均株価など主要米株式指数が軒並み史上最高値を更新するなど、株高の動きにつながっていることもあり、市場の評価は悪くありません。

世界経済という枠組みではどうかということもありますが、米経済という点においては、新型コロナウイルス感染拡大までは確実に成長路線に入っており、その点でも高評価です。

一方バイデン前副大統領は不動産売却や高所得者層への課税を強化する方針を示しており、市場の警戒感を誘っています。また、トランプ大統領が2017年末に成立させた法人税引き下げについて、撤回すると発言しています。

こうしたことから、バイデン大統領が誕生した場合、株安が一気に進行する可能性が指摘されています。

バイデン氏は副大統領職に就く前に上院議員を6期務めた民主党の重鎮であり、上院外交委員長を4年務めたことから、外交関係ではバイデン氏の方に安定感があるとの見方があります。

ただ、トランプ政権の下で対立が目立つ中国関係に関しては、バイデン氏も親中派というわけではなく、以前からやや距離を置いていた印象があるだけに、大きな変化は生じない可能性があります。

特に、ここにきて香港やウイグル自治区の問題を受けて、米上院は超党派で対中強硬姿勢が目立っており、バイデン政権もそうした議会の意向に反する可能性が低いと見られます。

こうした状況から、基本的にはトランプ氏が支持率で優位に立つとドル買い、バイデン氏が優位に立つとドル売りという流れが予想されます。

現時点では新型コロナウイルス感染拡大の影響もあってトランプ大統領が大きく支持を落としており、バイデン氏が優勢となっていますが、今後の選挙戦次第で十分にひっくり返る可能性がある差だけに、今後の支持率動向などに要注意です。

米経済指標にはそこまで目立ったものは見られませんが、注目イベントとしてはほかにも19日に公表されるFOMC議事録(7月28日・29日開催分)があげられます。

7月のFOMCでは事前見通し通り金融政策の現状維持が決められました。サプライズはなく、市場の反応は限定的なものとなりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響からの景気回復に向けたあらゆる手段を取るとの姿勢を示し、現状の実質ゼロ金利政策を必要な限り維持するという姿勢も改めて示されました。

ここにきて米経済指標は予想を超える改善を示していますが、FRBは慎重姿勢を崩していません。ただ、参加メンバーによる政策金利水準や経済成長見通しなどが示される次回9月のFOMCでのフォワードガイダンスに向けて、どのような議論が出てきているのかには注目が集まるところです。

物価目標を一時的に超えるまではゼロ金利を解除しないなどの、具体的な指針の提示に向けた議論が広がっているようだ、米株の上昇につながります。

また、7月のFOMC後のパウエル議長の会見は総じてハト派的な印象が強いものとなりました。そうした姿勢がFOMCメンバー全体にわたって強くみられるかどうかのポイントになりそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。